

みやぎ生協

● 「3.11 東日本大震災を忘れないつどい」

みやぎ生協は「3.11 東日本大震災を忘れないつどい」を、江陽グランドホテルで執り行い、全国の生協から 270 人が参加しました。

はじめに、震災で犠牲になられた方々を追悼し黙祷を行いました。続いて、齋藤昭子理事長



犠牲になられた方々へ黙祷を捧げました

が「震災を風化させないよう活動を全国に訴え続けます」とあいさつ。ご遺族を代表して生協職員の植木由梨さんが「たくさんの方の支援を受けた恩返しをこれからしていきたい」と話されました。

生産者を代表して、志津川かき養殖部会の遠藤勝彦さんが「生きるための後押しをしてくれた生協の皆さんに感謝しています」と話され、宮本弘専務理事が「震災を忘れず、普通の暮らしを取り戻した



遠藤勝彦さん(志津川かき養殖部会)

めの活動を続けましょう」と決意を新たにしました。

みやぎ生協は、2014 年度も役員一丸となって、被災地の生協として最後の最後まで、この地域がより豊かになっていくよう努力していく決意を固め、希望の明日をつくるため協同の力を発揮します。

(機関運営課課長 稲葉勝美)

● 食のみやぎ復興ネットワークが日本農業賞「食の架け橋の部」で奨励賞を受賞

食のみやぎ復興ネットワークが、第 43 回日本農業賞「食の架け橋の部」奨励賞を受賞しました。日本農業賞はNHKと全国農業協同組合中央会が主催して、農業経営や技術の改革と発展に取り組んでいる農業者と営農集団を表彰するもので、1971 年か

ら毎年 1 回開催されています。2004 年からは、農業者と消費者を結ぶ優れた活動や、未来の豊かな生き方・地域づくりへのヒントとなる食や農の活動を行っている団体や個人を表彰する「食の架け橋の部」が設けられました。

3月27日(木)「第43回日本農業賞表彰式」が、JAビルで開催され、宮本弘代表幹事に表彰状が授与されました。全国各地から推薦を受け、応募された 36 団体から選ばれての受賞でした。震災前の状態を復活させるだけ



2013 年 11/17 日本農業賞現地審査  
(岩沼市寺島にて)



日本農業賞授賞式

でなく新たに特産品を生み出し、地域の魅力を掘り起こそうとしている点や、みやぎ生協などネットワークを構成している団体が当事者として被災地を支え続けていることなどが評価されました。(店舗商品本部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局

藤田孝)

みやぎ生協

● 「女性ネットみやぎ結成2周年のつどい」

宮城県内の幅広い女性達が参加する「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」（以下「女性ネットみやぎ」）の結成2周年のつどい「守ろう！子どもたちのいのち・未来」が、3月22日（土）フォレスト仙台第7会議室で開催され、会場を埋め尽くす133人の参加がありました。

11時30分から、映像作家鎌仲ひとみさんの監督作「内部被ばくを生き抜く」DVD上映があ

り、午後からは鎌仲さんによる「原発は、もうたくさんだ」と題した講演がありました。福島原発による被曝放射線量よりずっと低いチェルノブイリで、毎年4,500人の子どもたちが国による長期滞在型の保養所を利用し、汚染地域から解放されリフレッシュしており、元気になった子どもたちの画像も示しました。鎌仲さんは「安倍政権の原発政策に対するには、身近な市や町や村を変えていくことが重要」と話されました。



講師の鎌仲ひとみ監督(映像作家)

その後、「第4回呼びかけ人会」が開かれ、鎌仲さんも交え「互いの活動を広く知らせあって、女川原発再稼働ストップの活動につなげていきましょう」など、今後の活動について活発な意見交換がなされました。

(生活文化部・女性ネットみやぎ事務局 昆野加代子)

生協あいコープみやぎ

● 福島原発事故を忘れない！女川原発再稼働を許さない！

3月16日（日）錦町公園で開催された「3.16 NO NUKES みやぎ」には、1,500人もの方が集まりました。会場には脱原発を始め、自然エネルギー、放射能問題などをテーマにした多数のブース出展やステージが設けられました。

ゲストの福島原発告訴団団長



高橋千佳理事(集会アピール宣言)

の武藤類子さん、前美里町町長の佐々木功悦さんは、「未だ事故が続く現実、そして何を言われようと原発再稼働に反対する」という強い思いを伝えました。女川原発再稼働反対を訴える団体から「共に活動していこう」という呼びかけに対し、参加者から大きな拍手が沸き起こりました。

あいコープみやぎの高橋千佳理事が、集会アピールで最後を締めくくると、参加者全員が「福島原発事故を忘れない！女川原発再稼働を許さない！」という



長蛇のデモ行進

気持ちをひとつにし、一番町に向かってアピール行進を行いました。市民が声をあげる大切さを実感することのできる集会でした。

翌日、集会アピール文を東北電力本店に届けました。女川原発再稼働の動きに注視し、引き続き広く連携して活動していきましょう。（理事 砂子啓子）

松島医療生協

● 「被災3周年 3.16 東松島市被災者応援プロジェクト」

「さみしい・・・買い物できる店を・・・病院、お医者さんを・・・JR電車を！・・・」東松島市沿岸部（旧鳴瀬町の牛網・野蒜・新東名）の津波被災した家を修理し住んでいる自宅を訪問した時の「訴えや声」の一部です。

3月16日（日）全国の日本医



「笑顔の新年生」  
支援物資の  
手提げバックを  
手にしてにっこり

療福祉生協連の仲間と松島医療生協の役職員総勢88人が、旧鳴瀬町地域の津波被災者宅287戸を訪問しました。全国からの特産品や日用品をお届けしながら、震災時の話や現在の生活について対話をしました。更に、仮設住宅2ヶ所でも、炊き出し・健康相談会も並行し行いました。

東日本大震災から3年が経過し、未だに東松島市の仮設住宅に多くの被災者が不自由な生活を続けていますが、世間では震災の風化が進み関心も薄れてき



訪問後の交流会

ています。

医療福祉生協連では、被災地を直接訪問し「歩いて・見て・聴いて」実態を把握し、今後の支援のあり方や進め方を検討するために行いました。又、現地医療生協として、今後の支援のあり方を再確認する取り組みになりました。

（被災地担当職員・小野潤一）

みやぎ県南医療生協

● 医療生協だからできる「健康づくり」を！

3月29日（土）の支援活動は、神戸医療生協から5人と、兵庫や東京の医学生23人が参加し、山元町牛橋区民会館で、健康講話会（大腸がんの話）、炊き出し、山元町花釜区の側溝上げ、Yさん宅での針きゅう師によるマッサージなどが行われました。



手話で「ふるさと」を合唱しました

牛橋区民会館での支援活動は、「医療生協の健康サロン」として2013年12月から開催し、3月で3回目になります。毎回20人を超える地域の方が参加され、医療生協ならではの健康チェックや健康体操が行われています。

春休みを利用して参加してくれた医学生は、キーボードやギターの演奏、ゲームなどを披露してくれました。昼食のカレーライスの炊き出し（100食）では、牛橋区のお母さんたちにもお手伝いいただき、医学生との交流を深めることができました。



医学生による健康チェック

2014年度の支援活動は、医療生協だからできる「健康づくり」を中心に、定期的な支援活動を継続していきます。支援ボランティアの学習会も定例開催し、支援者の輪を広げていきます。また、専門職の継続的な派遣を近畿ブロックの医療生協にも働きかけ、被災された方の健康不安を少しでも和らげるように努めていきたいと思ひます。

（常務理事 児玉芳江）

宮城県高齢者生協

● 女川原発の再稼働反対と東北電力に申入れ

宮城高齢協は、泉区の「原発ゼロをめざす泉区民行動」の実



（東北電力仙台台北営業所）  
申し入れの様子

行委員会に参加し、3月8日（土）午後から泉中央駅前広場で行われた宣伝署名行動に取り組みました。その後、原発なくせ3・8泉区民アクションの集会とデモ行進に参加しアピールしました。

3月12日（水）には、東北電力仙台台北営業所に出向き、泉区

民アクション代表団として「女川原発の再稼働反対」の申入れ行動に参加しました。

3月18日（火）は、みやぎ生協黒松店の店舗前で「原発なくせ」と、宣伝署名行動を行いました。4月15日（火）にも同店舗前で行いました。

● 被災から3年「震災体験と復興を語り伝えるつどい」

3月30日（日）石巻市鹿妻南コミュニティハウスにて「被災から3年『震災体験と復興を語り伝えるつどい』」が開催されました。各地の高齢協7県から55人が参加しました。

永野三男理事長が開会あいさつ、高齢協連合会の市川英彦会長から主催者あいさつがありました。労協センター事業団、福岡、山形、長野、新潟、岩手からそれぞれの高齢協の震災支援活動について報告しました。

その後、石巻市議会議員、商工会議所女性会会長、地元の鹿妻南町内会会長から、震災当時の石巻の状況や現在の復興への取り組み報告がありました。これからの街づくりを具体的に推進していく力強い取り組みは、参加者に元気と感銘を与える深い内容のお話でした。

31日（月）は、女川町の宿泊

村協同組合エルファロを出発して、「フクシマ視察ツアー」に24人が参加しました。バスの中で原発問題を学習し、南相馬市・浪江町へ。

南相馬市では元小高町町長の江井績さんら3人がバスに同乗して道案内。昨年9月には「通行許可書」で浪江の街中を視察できましたが、今回は「復旧作業」の工事用車両のみということで、浪江町庁舎など町の入り口近辺を回り、南相馬市小高区の海岸近くにバスを乗り入れました。海岸の堤防は決壊したまま補修もされず、家々も流されたまま手がつけられていません。残った家々や街中にも人の姿はありません。

日中のみ出入りが自由になった江井さんの家で話を伺いました。「被災3年になり、道を隔てて『認定』違いで補償額が全



↑ つどいの様子



フクシマ視察で話を聞く↑

く違う中で、隣近所の人たちの間で気持ちが分断されてきている。やり場のない怒りは東電や国にではなく隣人だった人に向かっていく。時間が経過する中で、ますます人々の心は荒んでいくのか」と話され、何ともいえない重い気持ちになりました。「忘れないで」と訴えられました。

これからも高齢協は「自分の目で見て肌で感じる」復興支援の活動を継続していきます。

（専務理事 山田栄作）

大学生協東北事業連合

● 被災高校より感謝の声 ～「未来の大学生応援募金」継続中！～

大学生協東北ブロックでは、2012年より「未来の大学生応援募金」の取組みを行っており、全国の大学生協組合員やお取引先などから2013年12月までに約1,100万円の募金が寄せられています。この募金の使途としては、岩手、宮城、福島の沿岸部を中心とした被災高校43校（後援会含む）に、「義援金」として総額1,075万円を送り、また、七ヶ浜町で月1～2回開催の「学習支援ボランティア」の

運営費用の一部とするなど、東北の子供達のために有効に使われています。

「義援金」をお送りした高校からは、学校運営の厳しい状況や被災した生徒の困窮した様子が、感謝の言葉を添えて多数寄せられており、義援金が有用であるということが分かりました。

東北ブロックではこれからも「未来の大学生応援募金」を継続し、引き続き被災地の子供達への支援活動を行っていきます。



【お問合せ】全国大学生協連 東北ブロック  
電話 022(717)4866 担当 齋藤

(全国大学生協連 東北ブロック 齋藤庄元)

宮城労働者共済生協

● 社会貢献活動 全労済文化フェスティバル みやぎの子ども応援ミュージカル「あらしのよるに」 & 「やなせたかしのメルヘン絵本」等身大タペストリーの展示

全労済宮城県本部では、みやぎ生協をはじめ関係各位からご後援をいただき、「宮城の子どもたちを元気に」というテーマ

のもと、3月29日(土)電力ホールにおいて、全労済文化フェスティバルみやぎの子ども応援ミュージカル「あらしのよるに」の公演を行いました。900人(無料招待)の募集定員に対し、約4,200人というたくさんのご応募がありました。

当日は晴天にも恵まれ、また春休みの期間中ということもあり、たくさんのご家族の皆さまにご来場いただきました。今回の「あらしのよるに」は、テレビアニメや絵本、映画や小学校の教科書にも採用された話題作

です。ミュージカルという想像力を育む文化芸術に触れる機会が、お子さまの成長にとって少しでもお役にたてたのなら大変うれしいことだと思います。

また、同日同会場で「アンパンマン」の生みの親として知られるやなせたかし先生の「やなせたかしのメルヘン絵本」等身大の絵本タペストリーも展示しました。やなせたかし先生の心温まる世界観に触れ、多くの皆さまが熱心にご覧になっていました。

(専務理事 畑山耕造)



公演の様子(上)  
「やなせたかしのメルヘン絵本」等身大タペストリー(左)